

## 抗がん剤治療 患者に帽子

室蘭 桜蘭中支援学級生が贈る



抗がん剤治療で髪の毛が抜けた患者のため、室蘭市立桜蘭中(伊藤博明校長、615人)の特殊支援学級の生徒が18日、製鉄記念室蘭病院に手作りのタオル製

帽子50個を寄贈した。同学級はタオル製の帽子を作るボランティア団体「ひだまりの杜」(伊達市、菅野佐千代代表)の協力を得て、昨年から作っている。

製鉄記念室蘭病院にタオル製帽子を寄贈した桜蘭中の生徒たち

今年は1〜3年生の11人が2学期から、寸法取り、裁断、ミシン縫いの作業を分担し、作り上げた。

同病院・化学療法センターの看護師蒲原香奈子さん(37)は「抗がん剤で髪や眉が抜けてしまい、使う人は多い。全然数が足りないのので、ありがたいです」とお礼を述べた。

3年の近村依香さん(15)は「正確さを心掛けて、一生懸命に作った」、2年鎌田朱里さん(14)は「髪の毛が抜けた患者さんが悲しくならないでほしいです」と話した。

(須田幹生)